

平成 30 年度学校目標

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒が自ら「思考・判断・表現」できる力を育成するために適切な教育課程を編成し、不断の授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒が主体性を持って組織的に学校行事等を企画・運営することを通して、社会のリーダーとしての資質を育てる。</p>	<p>①教育課程研究指定校及び授業力向上推進重点校として、55分授業の効果的な活用を図り、職員「主体的、対話的で深い学び」への理解を一層深め、生徒の自学・自習の力を高めるとともに、適切な評価方法について研究を進める。</p> <p>②学校行事や部活動における生徒の主体的取組を支援し、企画・運営から、評価・改善につなげる体制を維持・発展させる。</p>	<p>①授業力向上の取組の定着のもと、職員「主体的、対話的で深い学び」への理解を一層深め、生徒の「思考力・判断力・表現力等」を適切に測る評価方法の研究・開発を進める。</p> <p>②企画・運営を行う生徒と職員との「報告・連絡・相談」を徹底させ、組織的かつ効率的に行事運営を行う。</p>	<p>①研究授業後の生徒による授業の振り返りシートで9割以上の生徒が思考力の深まりを実感したか。評価に対する生徒の意識向上を目指し、学校全体でのアンケート調査等が実施できたか。</p> <p>②生徒と教員がコミュニケーションを良好にし、組織的かつ効率的な行事運営を行い、生徒の充実感が高まったか。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>①交通事故や学びの環境等に対して自ら意識し改善する態度を養う。</p> <p>②生徒の健やかな心身の育成及び社会生活を営むうえでの道徳観の深化を支える相談・支援体制の充実を図る。</p>	<p>①交通安全教育やマナー教育を推進し、生活面での「松陽スタンダード」を定着させる手立てを実践する。</p> <p>②SNS利用をめぐるトラブルなどへのより充実した相談体制・支援体制を構築する。</p>	<p>①警察等外部機関とも連携し、交通安全教育、ルール・マナーの定着を図る。</p> <p>②面談やアンケート等により、SNS利用や人間関係等でのトラブルを把握し、迅速な解決に向け、必要に応じてスクールカウンセラーや外部機関と連携体制を構築する。</p>	<p>①登下校中の交通事故やけがの発生件数を昨年度より減少させることができたか。</p> <p>②トラブルを把握し、迅速な解決に向け、スクールカウンセラーや外部機関との連携体制を構築することができたか。</p>

3	進路指導・支援	<p>「行ける学校」「入れる学校」から「行きたい学校」「入りたい学校」を目指す体系的なキャリア教育を一層充実させるとともに、より高い目標実現を目指す気概を育てる。</p>	<p>①複数のグループや教科と連携したキャリア教育を充実し、大学入学共通テストへの対応を進めるとともに、「行きたい学校」「入りたい学校」を目指した相談・支援や個別課題への対応を充実する。</p> <p>②新しい大学入試に対応できるように、英語科と協力し、新1年生対象に英語の外部試験を導入し、生徒たちの意識を高める。</p>	<p>①相談・支援の充実のため進路資料室内で面談ができるようなスペースを作る。</p> <p>②4技能を図る英語外部試験を実施する。(8月下旬)</p>	<p>①進路資料室に面談スペースを作ることができたか。</p> <p>②外部試験の導入がスムーズにできたか。</p>
4	地域等との協働	<p>地域貢献活動やボランティア活動を通じ、地域との協働を進めるなかで、地域の子どもたちのリーダーになれる資質を育てる。</p>	<p>①福祉委員会や生徒会執行部を中心とした手話によるあいさつ運動、地域貢献活動、ボランティア活動及び部活動による地域交流を推進するとともに、より多くの生徒に活動を広げる。</p>	<p>①地域貢献活動やボランティア活動を福祉委員会や生徒会執行部を中心に実施する。また、クラスへの呼びかけを行い、一般生徒も参加できるような活動にする。</p>	<p>①福祉委員会や生徒会執行部が地域貢献活動やボランティア活動の中心としての自覚を持ち、参加する生徒は増えたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①安全管理や教育環境整備を計画的に行い、地域から信頼される学校づくりをさらに進める。</p> <p>②安全・防災に対する意識を養い、危険を予測し不測の事態に臨機応変に対応できる資質を高める。</p>	<p>①②老朽化した施設・設備の整備を順次進め、学校施設面での安全確保を目指し、安全に係る情報に関して地域・保護者との連携を図る。HPの充実を通して学校情報を積極的に発信する。家庭とも連携して防災対策を推進する。さらに、急激な世代交代を踏まえ円滑な組織運営の構築を行う。</p>	<p>①②修理営繕に柔軟に対応できるように予算措置を行う。また校内施設の有効利用を目指す。保護者・中学生・地域のニーズに合った情報を発信する。DIGをさらに深化させていく。業務マニュアルを再構築する。</p>	<p>①②危険箇所など優先的に整備できたか。より施設利用状況を改善できたか。生徒や保護者の意見も踏まえHPの改善を図れたか。学校の取組が、家庭での防災についての話し合いにつながったか。多くの異動にも耐えられる業務マニュアルができたか。</p>